



ヘルパンギーナ／手足口病



ヘルパンギーナと手足口病は毎年初夏から秋にかけてこどもの間で流行する夏風邪（なつかぜ）と呼ばれるウイルス性の病気です。

	ヘルパンギーナ	手足口病
症状	突然の高熱で発症し、口の中の奥の方に水疱や潰瘍ができます。発熱の期間は2-4日間です。	口の中、手のひら、足の裏などに、発疹や水疱ができます。あまり高い熱はでません。発熱の期間は2-4日間です。発疹は1週間以内に消退します。
原因ウイルス	エンテロウイルス属のウイルス (コクサッキーウイルスA群、エンテロウイルス71型など)	
感染経路	咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛沫感染です。また水疱の内容物や便中のウイルスが手を介して口や目などの粘膜に入ることによる経口、接触感染もあります。	
治療	対症療法が中心です。ワクチンや特効薬はありません。熱が高いときは解熱剤を使用します。咳、鼻水があれば、咳止め、去痰薬を処方します。	
予防	こまめな手洗いを習慣づけましょう。 咳やくしゃみをする時にはマスクをしましょう。 集団生活でのタオルの共用を避けましょう。 便中にもウイルスが排泄するので、おむつ交換後の手洗いを徹底しましょう。	
その他	食事や水分がとりにくくなり、脱水症状をおこすことがあります。水分摂取を促し、のどごしのよいものを食べさせてください。経口摂取がとれなければ点滴をすることもあります。解熱して元気になれば登園、登校は可能です。	